

裁定取引残高の推移

※推奨ブラウザはIE9以上。他のブラウザでは画面が崩れる場合があります。

😊 にっこり

😞 がっかり

サイトの評価をクリック！

裁定取引残高の推移

金額合計 | 株数合計

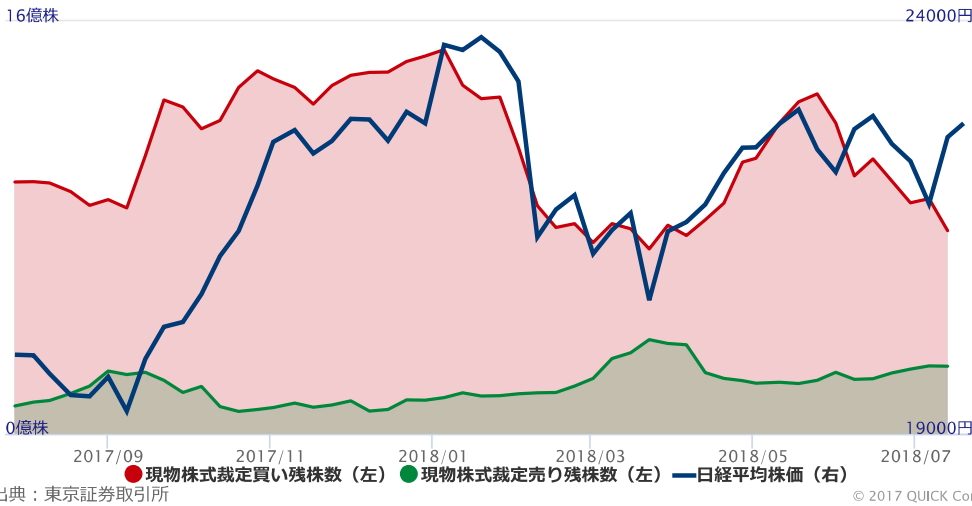
日経平均株価 | TOPIX | NT倍率 | 直近1年▼

🏠 ポータル | ⏪ | ⏩ | 🔄

裁定取引に係る現物ポジション (当限と翌限以降の金額合計)

	売り残	買い残
07/13	0.85兆円	1.57兆円
07/06	0.83兆円	1.80兆円
06/29	0.81兆円	1.81兆円
06/22	0.77兆円	2.02兆円
06/15	0.71兆円	2.26兆円

裁定取引に係る現物株式の残高 (株数合計、週次)



裁定取引に係る現物ポジション (当限と翌限以降の株数合計)

	売り残	買い残
07/13	2.45億株	7.38億株
07/06	2.46億株	8.54億株
06/29	2.35億株	8.39億株
06/22	2.21億株	9.19億株
06/15	1.99億株	9.99億株

<NQN>◇裁定取引の現物株買い残、4週連続減少 13日時点 [2018/07/19 16:50配信]

東京証券取引所が19日発表した13日時点の裁定取引に伴う現物株の買い残高 (期近・期先合計) は4週連続で減少した。金額ベースでは、前の週に比べて2306億円減の1兆5787億円だった。4月6日以来およそ3カ月ぶりの低水準となった。

この週 (9~13日) の日経平均株価は809円 (3.7%) 上昇したが、日中は朝方にいったん上げた後、伸び悩む日も多かった。株価指数先物が先行して下げた場面で「裁定業者が割安になった先物を買戻し、現物株を売る『裁定解消売り』の方が目立った」 (国内証券アナリスト) という。

現物株の裁定売り残高は5週連続で増加した。売り残高は前の週に比べ251億円多い8583億円だった。

[日経QUICKニュース (NQN)]

QUICKをご利用の方は以下の画面をご参照ください。

裁定取引にかかわる現物ポジション (週間) STCF500

<QUICK>日経平均・週間かつUP (9~13日) 809円21銭上昇 [2018/07/13 15:55配信]

9~13日の東京株式市場で日経平均株価は809円21銭上昇した。4週ぶりの上昇。

	始値	高値	安値	終値	前週比較
7/9-13	22052.18	22597.35	21932.21	22597.35	+809.21
7/2-6	21811.93	21811.93	21546.99	21788.14	-516.37
6/25-29	22338.15	22342.00	22270.39	22304.51	-212.32
6/18-22	22680.33	22693.04	22278.48	22516.83	-334.92
6/11-15	22804.04	22966.38	22738.61	22851.75	+157.25

※前週比較は前週終値との比較。

日経QUICKニュース社 (NQN) が9~13日に配信した「日経平均大引け」は以下の通り。

[9日]

<NQN>◇日経平均大引け 続伸 米利上げ加速の観測後退 アジア株高追い風

9日の東京株式市場で日経平均株価は続伸した。終値は前週末比264円4銭 (1.21%) 高の2万2052円18銭だった。前週末発表の6月の米雇用統計で平均時給の伸びが市場予想に届かず、米利上げ加速の懸念が後退した。好景気と低金利が併存する「適温経済」への期待を背景に、投資家心理が改善した。電子部品株など好業績銘柄を中心に幅広く買いが入った。アジア株の上昇も追い風となり上げ幅は一時300円を超えた。

東証1部の売買代金は概算で2兆415億円 (速報ベース) だった。

[日経QUICKニュース (NQN)]

【10日】

<NQN>◇日経平均大引け 3日続伸、144円高 米株高や円安を好感

10日の東京株式市場で日経平均株価は3日続伸した。前日比144円71銭（0.66%）高の2万2196円89銭で終えた。9日の米株式相場が大幅高となり投資家心理が改善。短期スタンスの投資家が日本株の買い戻しに動き、ファストリやソフトバンクといった主力の値がさ株が上昇した。円が対ドルで約1カ月半ぶりの安値を付けたことで採算改善の期待が高まり、輸出関連株も高くなった。

東証1部の売買代金は概算で2兆6087億円（速報ベース）だった。

〔日経QUICKニュース（NQN）〕

【11日】

<NQN>◇日経平均大引け 反落、2万2000円割れ 米中摩擦の激化懸念

11日の東京株式市場で日経平均株価は4営業日ぶりに反落した。終値は前日比264円68銭（1.19%）安の2万1932円21銭で、節目の2万2000円を割り込んだ。トランプ米政権が10日、2000億ドル（約22兆円）に相当する中国製品に10%の追加関税を課す措置の原案を公表。米中の報復合戦への警戒感が再燃し、中国経済や国際貿易の動向に影響を受けやすい海運株や機械株に売りが続いた。日経平均の下落幅は450円を超える場面があった。

朝方の売りが一巡した後は、外国為替市場で円の対ドル相場が伸び悩んだことが支えとなり、やや下げ渋った。株安を受けて日銀が上場投資信託（ETF）を買うとの思惑も下値の売り込みづらさにつながった。

東証1部の売買代金は概算で2兆3208億円（速報ベース）だった。

〔日経QUICKニュース（NQN）〕

【12日】

<NQN>◇日経平均大引け 反発、255円高 円安好感で見直し買い

12日の東京株式市場で日経平均株価は反発した。前日比255円75銭（1.17%）高の2万2187円96銭で終えた。外国為替市場での円安進行や中国・上海株式相場の上昇を受けて投資家心理が改善。自動車など輸出関連株に見直し買いが入った。米中貿易摩擦への警戒が残るなか、悪影響を受けにくい内需株やディフェンシブ銘柄が物色されたのも相場全体を押し上げた。

東証1部の売買代金は概算で2兆3081億円（速報ベース）だった。

〔日経QUICKニュース（NQN）〕

【13日】

<NQN>◇日経平均大引け、大幅続伸 409円高 米株高・円安を好感

13日の東京株式市場で日経平均株価は大幅続伸した。終値は前日比409円39銭（1.85%）高の2万2597円35銭だった。6月21日以来、約3週間ぶりの高値。前日の米株高や外国為替市場での円安・ドル高進行を受け、投資家心理が強気に傾いた。午後に入り、海外ヘッジファンドなどの短期筋が円安進行などを材料に株価指数先物に買いを入れたことで、裁定取引で現物株指数を押し上げた。日経平均は一時、上げ幅が500円を超える場面もあった。ファストリやソフトバンクなど、主力の値がさ株の上昇が目立った。

東証1部の売買代金は概算で2兆5472億円（速報ベース）だった。

〔日経QUICKニュース（NQN）〕

〔QUICKナレッジ開発本部まとめ〕

▲閉じる

【免責事項について】

本コンテンツの内容および管理については万全を期しておりますが、QUICKがその内容を保証するものではなく、これらによって生じたいかなる損害につきましても、その原因の如何を問わず、QUICKおよびQUICKが指定する者は一切責任を負いません。

本コンテンツに関する一切の知的財産権は、QUICKまたはQUICKが指定する者に帰属し、本コンテンツの改変および複製ならびに本コンテンツの全部または一部を、その方法の如何を問わず、第三者に提供することは一切禁止します。

本コンテンツは予告なく変更、更新、停止することがあります。

本コンテンツは、情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご利用者ご自身のご判断と責任において行って頂くものといたします。